

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                |
|---------|----------------|
| 事業所番号   | 4078900216     |
| 法人名     | 有限会社 裕和        |
| 事業所名    | グループホームまほろば    |
| 所在地     | 福岡県柳川市三橋町正行351 |
| 自己評価作成日 | 平成27年9月14日     |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |                                                                       |
|----------|-----------------------------------------------------------------------|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a> |
|----------|-----------------------------------------------------------------------|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                     |         |             |
|-------|---------------------|---------|-------------|
| 評価機関名 | 公益財団法人 福岡県メディカルセンター |         |             |
| 所在地   | 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号  |         |             |
| 訪問調査日 | 平成27年10月6日          | 評価結果確定日 | 平成27年10月23日 |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは、1ユニットという特色を活かし、可能な限りの柔軟な対応をし個に応じたケアを行っております。また入所者様の一人ひとりを自分の家族のように密に接することができていると自負しております。

また、地域との連携も良く、各地域行事への参加と住民の方々からの協力も得ることができておりますし、事業所や認知症に対する理解も深まってきたように感じます。

入所者様にとっての快適とはなんなのか、普通に生活するってどういうことなのかを日々考えつつ援助しております。

事業所の周りには田畑が広がっており、静かな落ち着いた環境の中にある。近隣からは新鮮な野菜を頂いたり地域行事の誘いがあるなど、地域との繋がりが強く日常的に交流が図られている。毎年グループホーム全国大会に参加して取り組んだケア方法の発表をしたり、他施設の方法を学んだりして、日々利用者本位のケアができるよう方法を学習し実践している。市独自の事業である65歳以上の方のボランティア活動に対してポイントを付与する『介護予防ポイント活動』に事業所として登録しており、介護予防のための取り組みにも力を入れている。また、認知症の介護を行っている家族や認知症に不安を抱えている方などを対象に、認知症について語り合う『認知症カフェ』の開設などを新たに取り組もうとしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 |                                                    | 取 り 組 み の 成 果<br>↓ 該当するものに○印 |                                                                   | 項 目 |                                                                       | 取 り 組 み の 成 果<br>↓ 該当するものに○印 |                                                                   |
|-----|----------------------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------|-----|-----------------------------------------------------------------------|------------------------------|-------------------------------------------------------------------|
| 58  | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:25,26,27)     | ○                            | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 65  | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,21)     | ○                            | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 59  | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:20,40)           | ○                            | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 66  | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,22)                       | ○                            | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 60  | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:40)                 | ○                            | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                            | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 61  | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:38,39)  | ○                            | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68  | 職員は、活き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                        | ○                            | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 62  | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:51)                | ○                            | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 69  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                         | ○                            | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 63  | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:32,33)       | ○                            | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 70  | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                     | ○                            | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 64  | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:30) | ○                            | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |     |                                                                       |                              |                                                                   |

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

| 自己<br>外部   | 項目  | 自己評価                                                                                                                         | 外部評価                                                                                                         |                                                                                                       |  |
|------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|            |     | 実践状況                                                                                                                         | 実践状況                                                                                                         | 次のステップに向けて期待したい内容                                                                                     |  |
| I.理念に基づく運営 |     |                                                                                                                              |                                                                                                              |                                                                                                       |  |
| 1          | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                                                           | 「楽しく自分らしく」を理念としている。入所者様の個性に合わせたケアができる事。ホームの玄関を入ればすぐに理念が見えるように掲示しており、来訪者にも分かりやすくしている。管理者と職員は朝礼などで理念を確認し合っている。 | 平成16年の開設時から掲げている理念と倫理要綱を、毎朝の朝礼時に唱和して確認している。日々の支援の中でも利用者にとってしたい事ができるようなケアに努め、理念を実践している。                |  |
| 2          | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                                                           | 近隣の皆様には、いつもホームのことを気にかけていただき関心も高い。事業所ということで区別もされず、地域の方々と同様に扱って頂き感謝している。地域行事にもよくお声がかかり参加させていただいている。            | 新鮮な野菜を頂いたり、地域行事への誘いを受けたり、事業所の行事などにも参加頂くなど、地域との繋がりは強く、日常的に交流できている。キャラバンメイトとして、地域の学校や会社とも交流を図っている。      |  |
| 3          |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                                                         | 運営推進会議・地域行事や当事業所の行事の際に認知症についてお伝えできていると思う。また、今年度からは当事業所からキャラバンメイトの資格を3人取得し、認知症の理解拡大に向けて微力ながら貢献している。           |                                                                                                       |  |
| 4          | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている                                      | 運営推進会議では、報告話し合いを行うとともに、その内容について職員間で周知し、また外部の方にも閲覧してもらっている。そこでの意見はサービス向上のために活かしている。                           | 区長、民生委員、公民館長、消防団代表、市職員、地域包括支援センター職員が参加し、現況報告や行事報告などを行っている。地域から見た印象などの意見を聞いて、改善に向け取り組んでいる。             |  |
| 5          | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる                                                | 主に運営推進会議を利用し、事業所の取り組み等を伝えている。また、市からの要請がある場合には可能な限り答える事が出来ればと思っている。                                           | 運営推進会議には必ず参加して頂き、顔の見える関係作りに取り組んでおり、必要があれば電話などでも相談している。また、筑後地区の連絡協議会にも参加している。                          |  |
| 6          | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束を行ったことはないが、その行為や対応方法については、勉強会などを通じて学習している。<br>身体拘束を行わざるを得ない場合は、すぐに医師の許可をもらえるよう体制を整えている。                  | 常時見守りをする事により、玄関の鍵は閉めないようにしている。ただし、安全を一番に考え、施錠する場合もあるが、施錠していることを張り紙で知らせるなど工夫を行っている。勉強会で身体拘束について周知している。 |  |

| 自己 | 外部  | 項目                                                                                                                                  | 自己評価                                                                                             | 外部評価                                                                                                                   |                                                       |
|----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
|    |     |                                                                                                                                     | 実践状況                                                                                             | 実践状況                                                                                                                   | 次のステップに向けて期待したい内容                                     |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている                                              | 虐待に関しても研修や勉強会で学ぶ機会を設けている。また、虐待がないように、入所者様の様子は毎日確認し、防止に努めている。また、朝礼などで虐待とはどのようなことなのか確認し合っている。      |                                                                                                                        |                                                       |
| 8  | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している                                         | 主に勉強会などで確認し合っている。入所者様の家族等の相談があった場合には、全ての職員が対応できるように努力している最中である。                                  | 現在制度活用者はいない。法人全体で定期的に内部研修を行っているため、職員は理解ができています。パンフレットは常備されており、いつでも説明ができる体制が整えてある。                                      |                                                       |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                                                              | 見学时・入所時に説明を行っている。重要事項説明書・契約書を用いお互いが納得した上での契約を行っている。また、改訂時には文書を出し、承認をもらっている。                      |                                                                                                                        |                                                       |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                                          | 入所者とその家族には積極的に話かけ、気軽に話せる雰囲気を作るよう努力している。その際に頂いた意見などは記録に残し職員に周知させている。                              | 家族には月に1回は必ず面会をお願いしており、その際に意見を聞くようにしている。意見箱も設置して、意見収集ができる体制を取っており、家族から出た意見をケアに取り入れている。                                  | 運営推進会議の参加や介護計画の必要性など家族の理解を得られる関係を築けるよう、更なる取り組みを期待したい。 |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                                                           | 事業所内での会議などで聞く機会を設けている。また、普段からいつでも話を聞けるように管理者の部屋のドアは開けている。その意見は運営に反映できていると思う。                     | 2ヶ月に1回スタッフ会議を行っており、ケア方法の統一を図るために意見を取り入れながら実践している。職員のシフト希望などもよく聞いており、若い職員も意見を言いやすい環境が作られている。                            |                                                       |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている                                           | 努めている。小さい職場であり、管理者も共に働いているので職員の個々の様子は分かりやすい。勤務に無理が出ないように、整備している。                                 |                                                                                                                        |                                                       |
| 13 | (9) | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 職員の採用にあたっては性別・年齢などで差別した経験はない。既に働いている職員に関しては、できる限り本人の希望に合わせた勤務に状態にし、仕事外でも生き生きと生活していただけるように配慮している。 | 職員募集に制限は設けていない。現在、30歳～70歳の職員が勤務しており、未経験でも資格取得できるような体制をとっている。また、自宅での子育てや介護状況などを確認し、無理のない勤務ができるように配慮しており職員も生き生きと勤務できている。 |                                                       |

| 自己                         | 外部   | 項目                                                                                              | 自己評価                                                                                   | 外部評価                                                             |                   |
|----------------------------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                            |      |                                                                                                 | 実践状況                                                                                   | 実践状況                                                             | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14                         | (10) | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる                            | 人権については朝礼や介護業務の中で日々確認し合っている。勉強会・研修会でもその内容を確認し、人権を尊重した介護ができるように取り組んでいる。                 | 内部、外部研修で理解を深めている。利用者に対しては、特に声のかけ方が命令的、威圧的にならないよう心掛け、日々の業務を行っている。 |                   |
| 15                         |      | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている          | 研修案内表を掲示し、可能であればいつでも行けるように配慮している。また、研修計画表を作成しできる限りそれに添って学習できるようにしている。                  |                                                                  |                   |
| 16                         |      | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム協会に加入している。しかし、なかなか時間が取れず協会のイベントに参加できないことも多いため、主に研修会等で同業者と交流している。                |                                                                  |                   |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |      |                                                                                                 |                                                                                        |                                                                  |                   |
| 17                         |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている         | 入所前に可能な限り本人に面会し、要望や状態を確認している。また、本人に面会が不可能な場合は家族や前施設の職員等から情報を得て安心のできる環境を整えた後、入所を決定している。 |                                                                  |                   |
| 18                         |      | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている                    | 入所前に家族の要望を聞き、入所前には施設の見学を必ず行ってもらっている。また、家族の希望と当事業所の要望をお互いに出し、納得してもらったうえで入所を決定している。      |                                                                  |                   |
| 19                         |      | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                | 入所時に必ず介護のニーズを確認するようにしている。また、ケアプラン更新時や入所者の体調環境が変更された時点で再度確認するようにしている。                   |                                                                  |                   |
| 20                         |      | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                                   | 本人の状態を見極めたうえで、出来ることは自分で行ってもらい、その他の部分は援助していく方針を取っている。                                   |                                                                  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目                                                                                          | 自己評価                                                                                                          | 外部評価                                                                                     |                   |
|------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                                    |      |                                                                                             | 実践状況                                                                                                          | 実践状況                                                                                     | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21                                 |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、<br>本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている            | 本人と家族の関係が切れないように、<br>連絡を取り合っている。事あるごとに<br>家族に連絡し、家族の意見を聞くように<br>している。                                         |                                                                                          |                   |
| 22                                 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場<br>所との関係が途切れないよう、支援に努めている                        | 本人の友達地域の人々には本人の同意を得<br>て公表できる人は面会などに来ていただい<br>ている。ただ、最近は公表を望まない人も<br>多く、面会は減っている。馴染みの場所には<br>可能であれば行くようにしている。 | 友人が遊びに来ることもあり関係性は<br>継続できている。また、昔参加してい<br>た将棋サークルや俳句の会などの馴染<br>みの場所への参加も支援している。          |                   |
| 23                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ<br>ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような<br>支援に努めている                | お互いに協力し合って活動のできる場<br>を設定している。レク活動等に参加し<br>たがらない方でも、その場にいてもら<br>うなどの配慮をしている。                                   |                                                                                          |                   |
| 24                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関<br>係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族<br>の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他所に移動される場合などは、必ず<br>フォローをいれ本人の様子を把握する<br>ようにしている。後は、本人と家族の<br>希望に応じて相談、支援に応じてい<br>る。                          |                                                                                          |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |                                                                                             |                                                                                                               |                                                                                          |                   |
| 25                                 | (12) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握<br>に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し<br>ている                        | 本人や家族から希望を聞き、出来る範<br>囲で希望に添うようにしている。情報<br>が聞き出せない場合は、生活の中で本<br>人に注目して、意向の把握に努めてい<br>る。                        | 利用者、家族より希望や意向を聞き、<br>把握している。希望を確認できない利<br>用者に対しては、担当者が日頃の言動<br>や行動などを確認し、職員間で検討し<br>ている。 |                   |
| 26                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環<br>境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努<br>めている                    | 以前利用されていたサービス事業所等<br>と連携しお互いの情報を交換するよう<br>にしている。本人や家族から情報を得<br>ることが出来ればそれを把握しサービ<br>スに役立てている。                 |                                                                                          |                   |
| 27                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する<br>力等の現状の把握に努めている                                      | 入所者一人ひとりに担当者がおり、細<br>かい部分まで把握している。また職員<br>間で連携し、全ての職員が情報を共有<br>している。                                          |                                                                                          |                   |

| 自己 | 外部   | 項目                                                                                                                 | 自己評価                                                                             | 外部評価                                                                              |                   |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                                                    | 実践状況                                                                             | 実践状況                                                                              | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している             | 本人の希望と様子、家族の要望等聞いた上で計画を練っている。また、職員の意見も取り入れ、介護計画を変更することもある。                       | 利用者、家族の希望や意向、職員、主治医の意見などを取り入れて介護計画を作成している。モニタリングは担当制となっており、状態変化時はその都度見直しを行っている。   |                   |
| 29 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                                    | 個別記録を記入しており、全職員が見ることが可能。また、日勤簿にも気づきを記入している。                                      |                                                                                   |                   |
| 30 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる                           | 行うことができるあらゆるニーズに対応している。ご家族からも喜ばれている（と思う）。しかし、反面職員の業務が増え、人手不足に悩まされている。            |                                                                                   |                   |
| 31 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                     | 地域との連携は出来ていると思う。各地域の行事や当事業所での行事お互いに参加し合っている。社会とのつながりも保っている。                      |                                                                                   |                   |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                 | 入所者それぞれに主治医がおり、希望通りの医療機関に受診することができている。また、当施設の主治医もあり、緊急の際などはすぐに来ていただける体制を整えている。   | 希望の他科専門医などへの受診もできしており、家族にも受診同行の協力をお願いしている。また、緊急時などは協力医の往診も受けることができ、安心できる体制となっている。 |                   |
| 33 |      | ○看護職員との協働<br>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                      | 情報については、看護師に相談するか、直接医師に相談している。アドバイスを頂き、ケアに役立てている。                                |                                                                                   |                   |
| 34 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | 定期的に病院関係者と情報交換を行っている。また、入院された場合頻回に面会に行き様子を確認し、病院の医師や看護師から情報を得ている。お互いに相談しあうこともある。 |                                                                                   |                   |

| 自己                               | 外部   | 項 目                                                                                                                | 自己評価                                                                            | 外部評価                                                                                                             |                   |
|----------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|                                  |      |                                                                                                                    | 実践状況                                                                            | 実践状況                                                                                                             | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35                               | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時にターミナルケアについて説明を行い、実際の終末期にも話し合いを行いターミナルケアを行っている。本人家族に十分な説明と同意後、医師の協力のもと行っている。 | 今までに8名ほどの看取りの経験があり、利用者、家族への説明、同意確認もしっかり行い、医師や訪問看護と連携を図りながら取り組んでいる。終末期のケア開始時には、ケア方法などについて勉強会を行い、ケア方針の統一、共有を図っている。 |                   |
| 36                               |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている                                             | 年に一度、または臨機応変的に応急手当の勉強会を行っている。救急救命講習などにも積極的に参加するようにしている。                         |                                                                                                                  |                   |
| 37                               | (16) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている                                             | 災害時における地域との連携の体制は出来ており、実際に行うことができる。また、火災時と水害時など避難方法などでも違うのでタイプ別に避難訓練も行うようにしている。 | 日中、夜間を想定して訓練を実施している。訓練には地域の協力もあり災害の種類によって変わる避難場所もしっかり把握できている。実際に数年前の水害時には、地域、役場の協力のもと、スムーズに避難を行えた。               |                   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |                                                                                                                    |                                                                                 |                                                                                                                  |                   |
| 38                               | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                                                  | 言葉遣いに関しては、日々特に注意している。また、行動についても職員同士で確認しあい、より良い介護ができるよう努力している。                   | 勉強会を行い、威圧的で指示するような声かけにならないよう注意している。また、時には方言を使い、失敗時には「大丈夫ですよ」と声かけを行って、利用者が安心できるように心掛けている。                         |                   |
| 39                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                                                       | 自分から希望・要望を言われることは少ないため、職員が話しかけ会話の中で把握することが多い。本人の行動に関しては何事も自己決定していただけるよう促している。   |                                                                                                                  |                   |
| 40                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                                   | 出来る範囲内で希望に沿っている。例えば、入浴など本来は週に3回であるが、希望に沿って増やすことはある。基本的に本人のやりたいことをしてもらうようにしている。  |                                                                                                                  |                   |
| 41                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                                                    | 支援している。しかし、身分で身だしなみを整えることが難しい方がほとんどであるので、職員がアドバイスを行うことが多い。                      |                                                                                                                  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目                                                                                 | 自己評価                                                                           | 外部評価                                                                                     |                   |
|----|------|------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                    | 実践状況                                                                           | 実践状況                                                                                     | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている       | 好きなメニューや食べたいものを会話の中で聞き、要望に沿うようにしている。可能であれば、野菜を切るなどの手伝いや台ふき等を行ってもらっていることもある。    | 事業所で育てた野菜や地域から頂いた野菜を使い、季節感のある食事を提供している。利用者と職員が同じ食卓で一緒に食事を楽しんでいる。利用者の力に応じた片付けを手伝ってもらっている。 |                   |
| 43 |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている            | 食事量、水分量に関してはひとりひとり記録をとり、過不足がないようにしている。また、その支援は個々に応じて行っている。                     |                                                                                          |                   |
| 44 |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                     | 毎食行い、必要があれば歯科医のアドバイスを聞き、それに添っている。職員は歯の状態も細かくチェックし、異常があれば医師に相談している。             |                                                                                          |                   |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている     | 排泄介助には力を入れており、入所時から可能であればオムツを外していけるよう支援している。個々にチェックを行い尿量便量、排泄パターンまで把握している。     | チェック表を用いて、個々の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄ができるように誘導している。入所時はオムツ使用だった利用者が、トイレでの排泄ができるようになった。       |                   |
| 46 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる                     | 個人差はあるが、便秘にならないよう食事には配慮している。運動を行い医師にもよく相談している。                                 |                                                                                          |                   |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている | 一応、週に三回と曜日は決まっているが、本人の希望と職員の配置により可能な場合は希望に添うことができるようにしている。入浴時間は、個々の希望に沿って差がある。 | 曜日を決めてはいるが、希望により、いつでも入れる体制は取っている。拒否がある場合には声かけを工夫し、誘導を行っている。入浴時間は長めに取り、ゆっくり入れるように努めている。   |                   |
| 48 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している                      | 支援している。基本的には、本人が眠いとき休息したいときにする。ただし、昼夜逆転などの生活に支障が出た場合には医師の判断でやめていただくこともある。      |                                                                                          |                   |

| 自己 | 外部   | 項目                                                                                                                               | 自己評価                                                                                             | 外部評価                                                                                                                 |                   |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                                                                  | 実践状況                                                                                             | 実践状況                                                                                                                 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている                                                               | 薬については副作用も含めて把握するようにしている。また、病状の変化があった際には医師に相談を行えるようにしている。                                        |                                                                                                                      |                   |
| 50 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                                                  | 日々の生活において、趣味の活動などをしていただけるように配慮している。毎日レク活動も行う傍ら、自分なりの活動も行ってもらえるよう配慮している。                          |                                                                                                                      |                   |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している                      | 気候の良い時には、日光浴や散歩など行うようにしている。また、バスハイクに行くこともしばしば。しかし、家族や地域の方々とは協力してどこかへ行くということはありません。               | 日常的に近所の散策などに出かけており、希望によっては買い物などにも出かけている。バスハイクでは季節の花々を見に行ったり、お弁当を作って公園に出かけたりしている。一度だけ、家族の協力を得て、山鹿温泉まで遠出したこともある。       |                   |
| 52 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している                                                  | 持てる方は持っていられるが、当事業所ではお金を持てる能力のある方が少なく、事業所側で管理している人がほとんどである。しかし、何か欲しいものなど希望に出されれば買い物に行くことなどはできている。 |                                                                                                                      |                   |
| 53 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている                                                                           | 希望があれば、常識の範囲内での電話連絡、手紙のやりとりは自由に行えるように配慮している。                                                     |                                                                                                                      |                   |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | できるだけ、移動がわかりやすくできるように配慮している。また、今の季節がなんであるのか分かるように壁紙などを作成している。                                    | 共有空間は、季節を感じられるよう飾られており、天窓からは光が射して明るい雰囲気が感じられる。居間の横には台所があり、食事の準備の音や匂いが漂い、生活感が感じられる。気候の良い時には空気の入替えを行い、快適に過ごせる空間となっている。 |                   |
| 55 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                                                      | 事業所自体が狭いので、十分と言えるかどうかはわからないが、思い思いに過ごしてもらえていると思う。                                                 |                                                                                                                      |                   |

| 自己 | 外部   | 項 目                                                                                    | 自己評価                                                                                          | 外部評価                                                                         |                   |
|----|------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    |      |                                                                                        | 実践状況                                                                                          | 実践状況                                                                         | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族に協力をお願いして、本人の馴染みのものなど持ち込んでもらえるようにしている。しかし、家族の協力にも個人差があり、がらんとした部屋の方もいらっしゃるので、職員で配慮するようにしている。 | 愛用のタンスや時計など、使い慣れた物が持ち込まれている。壁には、賞状や写真、利用者が作成した作品などが飾っており、居心地よく過ごせるように工夫してある。 |                   |
| 57 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している  | バリアフリー設計にしており、自由に動けるように配慮している。車椅子の方でも自走して行きたいところに行ける。また、出来ることは自分でできるよう環境面でも配慮できている。           |                                                                              |                   |